

【目的】 パンティストッキング（以後、PSとする）の装着により、ウエストバンド部との接触部位に皮膚障害がみられることがある。また、生理的機能への影響ばかりでなく、装着中に不快感を感じることも少なくない。前報では、衣服圧、人体変形量の観点からそのより快適な装着位置を検討した。そこで本報では、PSウエストバンド部の装着位置と装着感との関連を解析した。

【方法】 試料は、衣服圧の異なる4種の市販PS（ニットインタイプ3種、アウト織ゴムタイプ1種）である。供用試料として、ウエストバンド部下12cmの位置でレッグ部から切断したパンティ部付きのウエストバンド部を用いた。装着位置は、腸棘点より4cm上のH2、さらに上方へと2cm間隔にH4、H6、H8、H10の計5カ所で、皮膚に印を付けた。被験者は女子大生43名とし、供用試料をH2、H4、... H10の順で装着し、“圧迫される感じ”、“かたい感じ”、“くい込む感じ”、“フィットする感じ”などの9つの調査項目について、立位と椅座位の姿勢でSD法による装着感評価を行った。

【結果】 装着感評価の結果は個人差が著しいが、調査項目ごとに次のⅠ～Ⅳ型の4タイプに分類される傾向がみられた。“圧迫される感じ”では、Ⅰ型はH2からH10へ、すなわち装着位置が上へいくほど圧迫される感じが低くなり、逆にⅡ型は装着位置が上方であるほど高くなる傾向がみられた。Ⅲ型は装着位置による顕著な差は認められないタイプで、以上のタイプ以外をⅣ型とした。